

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 17 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270202429		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム ひだまりの家		
所在地	〒857-0131 長崎県佐世保市大野町 166-13		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 10 日	評価結果市町受理日	平成 26 年 1 月 7 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

<p>地域密着型事業所として地域との交流、夏祭り、踊りの練習、敬老会の参加、公民館清掃、大野祭りへの作品出展等、地域からの交流として運動会の応援、BBQ の参加、地域有志様による清掃、民生員様による清掃、避難訓練(地区、消防分団計 47 名)、地域役員様と職員の新年会等、地域との交流は深まっております。外出支援では、一泊旅行、日帰り温泉、苺狩り、外食、ドライブ等ご利用者の声にお応えしております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは、近隣に、スーパーやドラッグストア等大型商業施設があり、交通の便が良い場所に位置する一方、一般道路からは高い場所にある為、見晴らしが良く全居室が横一列に配置され、陽光が降り注ぐ開放的な佇まいとなっている。

町内会に加入し、地域の行事には入居者、家族、職員共々参加しており、また、ホーム主催の行事には地域からも多数参加して頂き、その交流の在り方は地域に密着したグループホームの理念に沿った交流が図られており、地域に愛され親しまれている“ひだまりの家”が職員の自負にもなっており、更に、地域に根ざすことを目標に掲げられ、実践されている。

本年度、全職員は、生前の独居入居者の意向に添って、協力主治医と連携看護師、更には、全職員の総意のもとで看取り支援をされ、葬送の義（通夜、葬儀、火葬等）全般を家族に代わって執り行われた。それは職員にとって忘れることができない貴重な体験として心に刻まれている。ホーム長は、職員に対して、協働して支援することの大切さを説かれており、また、職員も故人からの貴重な遺訓として受け止められており、今後更に職員一丸となった“ひだまりの家”の成長発展が期待される楽しいアットホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」を毎朝の申し送りの際に唱和すると共に、事業所の理念である「思いやりの言葉、笑顔のケア、心地よいひだまり」の実践に日々取り込んでいる。	新人職員には、入社後に行われる法人内研修で、理事長から法人理念についての詳しい説明がある。ホームでは、毎朝ミーティング時に唱和され、職員も理解し、浸透されている。また、ホーム開所時、職員全員で作上げたホーム理念を職員間で共有し実践に繋がられている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所の行事には地域の方に参加して頂いている。また、地域の行事（夏祭り、敬老会など）には、当事業所の職員一同一丸となって参加している。	町内会に加入し、地域の行事には入居者、家族、職員共々参加している。その心温まる風景は地域からも注目され、存在感のあるグループホームとして認められている。近隣住人への、ホームの畑で収穫した野菜のお裾分けや近隣住人からの果実の差し入れ等を通じて、地域との交流は年を追う毎に深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々と意見交換を行っている。また、認知症についての勉強会を年に2回行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を職員で共有し、サービスの向上に努めている。	年6回開催され、双方向で活発な意見、要望が交わされており、運営推進会議を意見交換の場として活用されている。会議メンバーである他のグループホーム長から紹介して頂き、音楽バンド演奏グループの早速の慰問があり、入居者が大変喜ばれた。運営推進会議での意見交換がサービス向上に大いに活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場に、地域包括センターの方に参加して頂き、情報交換、意見交換を行っている。	運営推進会議には市職員や包括支援センターの参加があり、情報交換が行われている。市職員の異動の後の着任職員の訪問がある等引き継ぎもスムーズで電話での相談も気軽にでき、連携が図られている。	

6	<p>5 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了解を頂いている。</p>	<p>職員は、法人の内部研修で年1回、当該ホームの勉強会でも年1回、グループホーム協議会でも研修を行っておりその内容と弊害を認識しており、職員間でも共有されている。居室、事務所が2階である為、警察からの不審者情報等防犯上、普段は1階玄関を施錠しているが、子供達の登下校に合わせて開錠する等対応されている。</p>	<p>子供110番の事業所として周知され、登下校の児童の予期せぬ嬉しい来訪がある。登下校の時間に合わせて開錠の時間を延長する等改善の取り組みをされているが、今後は、警察からの情報をこまめに収集して、安全面に配慮しながら、再度、身体拘束をしないケアについて検討され、開錠に向けた取り組みの継続に期待したい。また、入居者の徘徊行動の真意を探り思いに寄り添い工夫して支援をされることが望まれる。</p>
7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内外の研修に参加し、虐待に関する理解を深めている。又、入浴や更衣介助の際、傷やアザ等が無いチェックを行うよう心掛けている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内外の研修に参加し、権利擁護に関する知識を深めるのはもちろんのこと、勉強会などを通じてホーム内にて情報の共有を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>当事業所のパンフレットを作成し、入居時や面談の際に、それらを利用し詳しい説明を行っている。</p>		
10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で出た意見をホーム会議で共有し、問題の改善に努めている。又、面会の際などに家族からの要望があった場合、対応した職員、管理者が中心となり対応している。</p>	<p>家族には、同意書を得た上で、入居者の近況を顔写真入りで、毎月のホーム便りでお知らせしている。ホーム便りを家族も心待ちにされている。家族会や、面会時、職員は入居者の状況等報告し、入居者、家族からの意見、要望に傾聴の姿勢で臨まれており、内容はケアプランにも反映し実践されている。</p>	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。	毎月開催されるホーム会議では、事務長も交えて意見交換がなされている。職員からの意見、要望を真摯に受け止め、迅速かつ適切な対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表を各職員で記載しその中で努力や今後の目標をそれぞれ掲げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務が研修等と重なった場合には研修を受けるべき職員の為に、勤務交代を工夫して行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会の研修など、多人数での研修、会議などに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、積極的なコミュニケーションを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設時に、要望等をご家族へ尋ね、それを介護へと取り入れることで、ご家族の悩みや不安を解消できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者との会話やご家族の要望から考えうる最適な支援を見極め、応えることが出来るよう心掛けている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は対等な立場であり、利用者の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を職員と共に築きあげている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所の行事の際にはご家族へ参加を願ひし、利用者と過ごす機会を作る手助けをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や利用者から情報を収集し、馴染みの場所や思い出の場所へ可能な限りお連れしている。	隣接する遊歩道は、子供たちの通学路になっている為、登下校時、挨拶を交わすことで、すっかり馴染みの関係となっている。入居者を取り巻く人間関係を職員間で共有し、関係を継続できる支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、外出支援等を通して、利用者同士の交流を深める機会を増やしている。交流が苦手な利用者に関しては、職員が間に入り解決するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の中から会話に重点を置き介護を行ひ、生活に対する要望の把握に努め、会話のやりとりが難しい方には、表情から汲みとるようにしている。	入居者が日常会話の中で発する言葉に傾聴し、申し送りノートで職員間共有を図っている。困難な入居者は家族からの意見聴取で入居者の意向把握に努めている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に初回面談を行い、これまでの状況を把握するように努め、記録と口頭による情報の共有を行っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を要約して記録に残しカンファレンスに際に、近況報告を行っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望と合わせて、各担当職員からの近況報告をもとに、ケアプランとケアの実践の見直しを行っている。	担当職員がモニタリングを基にプラン案を作成している。ケアマネージャー他全職員がミーティングで、カンファレンスを実施し、入居者、家族の同意を得て、一人ひとりがより良く暮らすための介護計画書が作成されている。3ヶ月で見直しされているが、状況に合わせた見直しも実施されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況等を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出支援の際にも2ユニットの利点を活かし、職員配置を工夫して、対応するようにしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事参加による地域の方との交流やレクリエーション、ボランティアの受け入れ、定期的な外出支援等を工夫して行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に関しては、定期的な往診や口腔ケアをお願いしている。その他の場合に関しては出来る限りご家族での対応を求めている。	検診や口腔ケアは協力医療機関からの定期的な往診で対応されている。必要に応じて専門科受診は主治医の紹介状を持って、家族の協力を得て支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業所が2回/月、健康チェックを行い、職員へのアドバイス等を行える体制を確立している。また、特変がある場合には協力医へ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されお見舞いに行った際に、看護師等より情報を収集し、他職員と情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、また必要な状態の際に再度主治医を交えて対談を行い、方針を決めるようにしている。(今年度看取りの実績あり)	部内外の研修にも参加し、看取りの知識力を高め、意識の向上を図られている。本年度、職員は、主治医や看護師との連携により、看取りを経験された。ホーム長は、職員の看取り後の精神的ケアにも配慮し、負担軽減に努められている。今年度の看取り経験を、スタートラインとして、今後も入居者、家族の要望に最大限添えることを目標に日々研鑽を積み重ねられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内外の研修に積極的に参加し、利用者の急変時に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、地域の方にも参加を呼びかけ実践的な訓練を行っている。	消防署指導の下、年2回入居者参加の火災訓練の他、夜間想定自主訓練も実施している。長崎グループホーム火災後、火災自主点検表にて火の元や、避難経路には障害物を置かない等、全職員で注意喚起を促している。土砂災害指定地区に位置し、入居者と共に地区の避難訓練にも参加して避難経路を確認する等、非常事態に備えておられる。火災訓練には地区消防団や近隣住人等47名の参加があり、地区の協力体制が十分に構築されているが、職員の役割分担が明確	職員は、初期消火、避難誘導の周知はあるが、緊急時の手順を再検討し、役割分担表を作成され落ち着いた行動をされることに期待したい。また、備蓄はあるものの、有事の際の保存食、他の生活備品を再検討され、最低3日分備蓄されることと消費期限の把握の為、一覧表を作成され、一括管理されることが望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉かけや丁寧な対応を職員一同心がけ、トイレ誘導などの際に実践するようにしている。 職員は、専門講師による法人内接遇研修に参加、入居者を人生の先輩として尊重し、安心して生活して頂けるようにしている。また、心身の状態に応じて細やかな配慮で接し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望（買い物、外出等）に可能な限り応えるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、消灯時間、入浴時間は可能な限り本人の希望に沿うように努力している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目は衣替えを行い、季節感を感じて頂き、希望者には、衣類の購入や理髪店の利用などの外出支援を行っている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜日を除く昼食は、外注となっているが、毎週火曜日の昼食には、入居者の好物を献立に組み入れ、入居者参加で調理が行われている。職員の優しい声かけや見守りの中、自分のペースで食事をし、楽しんでおられた。誕生会には家族も参加し、楽しい食事風景になっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事は配食サービスを利用している。食事制限、水分制限のある利用者に関しては、主治医の指導の下、利用者の状態に合った支援を行っている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表での入居者のパターン把握のみならず、一人ひとりの表情を逐一観察し、声かけにも工夫を凝らして誘導し、トイレでの排泄を支援されている。カンファレンスを設け見直しが行われ、自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により利用者の排泄状態を把握し、必要であれば、主治医の指示の下、下剤等を利用して排泄コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の状態や希望に合わせて、利用者本人と相談しながら、入浴して頂けるように支援している。	マンツーマンでの対応で、夏場は夏場はシャワー浴を含めできるかぎり回数を多くし、冬場は週2~3回入浴しているが、入居者の希望により毎日入浴可能となっている。入浴拒否の場合は時間を置いたり、対応する職員を交替する等、入浴支援がなされていて、清潔に配慮されている。ゆったりとした気分の中で要望を聞き取り、介護プランにも反映されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方は居室にて休んでい頂けるようにしてる。その際には、居室の温度管理や寝具の調整など気配りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルの下、服薬支援を行うとともに、服薬チェック表を活用し確認を行っている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週に1度手作り料理、レクレーション、映画鑑賞の機会を設け、利用者の気分転換が行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者の要望に沿った外出等を支援している。又、一泊旅行を企画しご家族にも参加のお願いをしている。	チラシ広告に目を通しショッピングセンターへの買物や外食等、入居者の急な要望にも可能な限り対応し支援されている。外出を好まれない入居者には、ホームの畑へ誘い出し、車椅子で出掛け、草むしりをする等土に触れる機会を設け気分転換を図っている。一人ひとりに添った暖かい支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、多少の現金を持っていただき、買い物を楽しんで頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用して頂くように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の飾りつけを季節ごとに変化させ、季節感を楽しんで頂けるようにしている。	高い天井の天窓からは明るい日差しが降り注ぎ、入居者にとって開放的な共用空間になっている。クリスマスの飾り付けがされ、季節感を感じながら居心地良く過ごせる様工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事が出来るよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた家具等を配置し、心地よい居室となるように工夫をしている。	ベッドや収納タンスは備え付けで、好みのものを自由に持ち込める様になっている。壁には入居者や家族の写真が飾られ、ファンである歌手のポスターが壁一面に飾られ、自分の部屋と同じように愛用の調度品で整えられ、居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前にネームプレートを設置したり、洗面所、トイレなどの場所がわかりやすいように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」を毎朝の申し送りの際に唱和すると共に、事業所の理念である「思いやりの言葉、笑顔のケア、心地よいひだまり」の実践に日々取り込んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所の行事には地域の方に参加して頂いている。また、地域の行事（夏祭り、敬老会など）には、当事業所の職員一同一丸となって参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々と意見交換を行っている。また、認知症についての勉強会を年に2回行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を職員で共有し、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、地域包括センターの方に参加して頂き、情報交換、意見交換を行っている。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加し、虐待に関する理解を深めている。又、入浴や更衣介助の際、傷やアザ等が無いチェックを行うよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し、権利擁護に関する知識を深めるのはもちろんのこと、勉強会などを通じてホーム内にて情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所のパンフレットを作成し、入居時や面談の際に、それらを利用し詳しい説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で出た意見をホーム会議で共有し、問題の改善に努めている。又、面会の際などに家族からの要望があった場合、対応した職員、管理者が中心となり対応している。		

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表を各職員で記載しその中で努力や今後の目標をそれぞれ掲げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務が研修等と重なった場合には研修を受けるべき職員の為に、勤務交代を工夫して行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会の研修など、多人数での研修、会議などに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、積極的なコミュニケーションを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設時に、要望等をご家族へ尋ね、それを介護へと取り入れることで、ご家族の悩みや不安を解消できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者との会話やご家族の要望から考える最適な支援を見極め、応えることが出来るよう心掛けている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は対等な立場であり、利用者の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を職員と共に築きあげている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所の行事の際にはご家族へ参加をお願いし、利用者と過ごす機会を作る手助けをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	ご家族や利用者から情報を収集し、馴染みの場所や思い出の場所へ可能な限りお連れしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、外出支援等を通して、利用者同士の交流を深める機会を増やしている。交流が苦手な利用者に関しては、職員が間に入り解決するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようになっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の中から会話に重点を置き介護を行い、生活に対する要望の把握に努め、会話のやりとりが難しい方には、表情から汲みとるようにしている。		

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に初回面談を行い、これまでの状況を把握するように努め、記録と口頭による情報の共有を行っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を要約して記録に残しカンファレンスに際に、近況報告を行っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望と合わせて、各担当職員からの近況報告をもとに、ケアプランとケアの実践の見直しを行っている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況等を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出支援の際にも2ユニットの利点を活かし、職員配置を工夫して、対応するようにしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事参加による地域の方との交流やレクレーション、ボランティアの受け入れ、定期的な外出支援等を工夫して行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に関しては、定期的な往診や口腔ケアをお願いしている。その他の場合に関しては出来る限りご家族での対応を求めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業所が2回/月、健康チェックを行い、職員へのアドバイス等を行える体制を確立している。また、特変がある場合には協力医へ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されお見舞いに行った際に、看護師等より情報を収集し、他職員と情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、また必要な状態の際に再度主治医を交えて対談を行い、方針を決めるようにしている。（今年度看取りの実績あり）		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内外の研修に積極的に参加し、利用者の急変時に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、地域の方にも参加を呼びかけ実践的な訓練を行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉かけや丁寧な対応を職員一同心がけ、トイレ誘導などの際実践するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望（買い物、外出等）に可能な限り応えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、消灯時間、入浴時間は可能な限り本人の希望に沿うように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目は衣替えを行い、季節感を感じて頂き、希望者には、衣類の購入や理髪店の利用などの外出支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度手作り料理の機会を設定し、利用者と共に料理の下準備に取り組んでいる。又、利用者の要望に合った食事を提供するように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事は配食サービスを利用している。食事制限、水分制限のある利用者に関しては、主治医の指導の下、利用者の状態に合った支援を行っている。		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表により利用者の排泄状態を把握し、必要であれば、主治医の指示の下、下剤等を利用し排泄コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の状態や希望に合わせて、利用者本人と相談しながら、入浴して頂けるように支援している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>休息が必要な方は居室にて休んでい頂けるようにしてる。その際には、居室の温度管理や寝具の調整など心配りを心掛けている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルの下、服薬支援を行うとともに、服薬チェック表を活用し確認を行っている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>週に1度手作り料理、レクレーション、映画鑑賞の機会を設け、利用者の気分転換が行えるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>可能な限り利用者の要望に沿った外出等を支援している。又、一泊旅行を企画しご家族にも参加のお願いをしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出の際には、多少の現金を持っていただき、買い物を楽しんで頂けるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用して頂くように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所内の飾りつけを季節ごとに変化させ、季節感を楽しんで頂けるようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士で食事が出来るよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた家具等を配置し、心地よい居室となるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前にネームプレートを設置したり、洗面所、トイレなどの場所がわかりやすいように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない